



第33回滋賀県競技かるた大会 上級者の部 優勝

日野三笠会 野中 駿介さん(中道)



▲野中さん(写真中央)と日野三笠会の皆さん

子どもからシニアまで、約100万人の競技者がいるという『競技かるた』。最近ではこの競技を描いたマンガ『ちはやふる』が人気となり、国内のみならず海外でも競技かるたを楽しむ人が増えています。

今回、滋賀県競技かるた大会で優勝された、野中駿介さんにお話を伺いました。

小学校、中学校では ほとんど負けなし

野中さんは、現在高校2年生。小学2年生のころに従兄弟に誘われたのをきっかけに日野三笠会に入会。小中学生のときには日野町

今後の目標は「A級になる」

競技かるたの大会は、実力に応じて出場するクラスが分かれており、一般社団法人全日本かるた協会がA級(四段以上)からE級(無段)の級位、段位を定めています。下位の級で一定以上の成績を修めることで、昇級の権利を得ます。

奥本会長は、「滋賀県競技かるた大会は、滋賀県だけでなく、京都府や福井県の三段以下の強豪選手も参加しており、優勝するのは至難の業。そのため、優勝者はほとんどなく、A級に昇級するというジレンマがあります」と教えてくださいました。大会参加者は44名。そのうち、日野三笠会の2名が予選を勝ち抜き4名による決勝に進出されました。

野中さんは試合中、札の配置やきまり字の暗記に力を注いでいるそうです。きまり字とは、その字まで読まれば、どの一首かが確定できるという部分のことで、札をとる早さが求められる競技かるたでは、きまり字の把握は必要不可欠とのこと。

また、競技かるたの魅力について、「狙っている札がとれたときや、この人には勝てないかもしれないと思う格上の相手に勝てたときが楽しいです」と話し、今後の目標について「A級になりたいです」と意気込みを話してくださいました。



地域の 防災リーダー

日野町消防団 入退団・昇任式を開催

4月6日(土)、日野消防署において、平成31年度日野町消防団入退団・昇任式が行われ、退団者21名、入団者21名、昇任者7名の辞令交付、感謝状授与等が厳粛に行われました。

新入団員を代表し、岸村諭志さんが「宣誓書」を読み上げられ、消防業務の遂行を誓われました。

新入団員の皆さんは式典終了後、日野消防署で基礎訓練を受講されました。昼夜を問わず発生する火災や各種災害から、家族や地域住民の生命・財産を守るためご活躍いただきます。

どうぞよろしく
お願いします。



“人にやさしい”バス を導入しました 一日野町営バス



乗りの降りやすさ

新しく導入した2台のバスは、児童や高齢者・車いすを利用される方にも乗り

やすいよう、乗降口の段差を無くした、乗り降りにやさしいバスです。

環境にやさしさ

新しいバスは、地球環境や人体に影響を及ぼす窒素酸化物などの有害物質を無害化し、排気ガスをよりクリーンにするための装置が搭載されています。

また、バスでの移動は、CO₂の削減による地球温暖化の防止にも繋がりますので、環境にやさしいバスをぜひご利用ください。

こだわりのデザイン

バスのデザインは、日野町在住のイラストレーター洞智子さんに手がけていただき、日野町の美しい自然である「綿向山」と「ホンシヤクナゲ」をテーマに、通学で利用される子ども達が愛着を持って乗れる可愛らしいデザインにしました。デザインの設定については、毎日通学で乗車されている桜谷小学校の児童と日野高校の生徒に投票していただき決定しました。

「しゃくなげ号」は、国の天然記念物にも指定されている鎌掛谷のホンシヤクナゲの自然豊かな風景をデザインしています。

「わたむき号」

綿向山をイメージして描いた「わたむき号」は、綿向山に生息する動植物を組み合わせたデザインです。春夏秋冬の季節の移り変わりを花や虫・樹氷を描いて表現しています。どんな動物が描かれているか注目してみてください。

「しゃくなげ号」
ホンシヤクナゲを描いた

車内もリニューアルしました！



車内も広くなりました。座席数が少ないので、乗降口に近い席は、譲り合いをお願いします。

誰もが乗りやすいバリアフリー車両になりました。乗降口の段差をなくしたノンステップバスです。



◆問い合わせ先 企画振興課 企画人権担当 ☎0748-52-6552